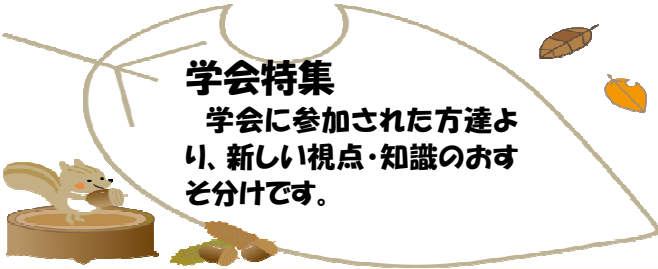


NURSE LETTER 11



学会特集

学会に参加された方達より、新しい視点・知識のおすそ分けです。



日本手術看護学会に参加して

手術室 古谷 亜希

「手術室のイノベーションを考える」をテーマに名古屋で開催された日本手術看護学会に参加しました。シンポジウムでは3月に発生した東日本大震災の時に偶然撮影された、実際の手術中に地震にみまわれたビデオを見ました。自分自身の身を守るだけでも精一杯なのに、患者を守る為にスタッフが丸になっていた事に感銘を受けました。多くの施設で避難訓練を行うことは有効であると言われており、その時によって災害の種類や程度は違っても、日頃から様々なシチュエーションを考えておくことが必要だと思いました。



安全対策や皮膚・神経障害の予防、術後訪問についての発表が多くありましたが、私たちが実践している周術期看護はひけをとらないものだと感じました。日々のカンファレンスで更に良い看護が提供できるよう検討を行っていこうと思います。体温管理や口腔ケアに関しては術中だけでなく術前からのケアが必要であることも再認識しました。病棟と連携して周術期ケアの充実を行っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

第16回 日本糖尿病教育・看護学会に参加して

北5病棟 内 みゆき

「人々の健康と福祉に貢献すること」を目的に、「糖尿病看護ネットワーク」をテーマとした日本糖尿病教育・看護学会に参加してきました。糖尿病はあらゆる疾病の原因疾患でもあり、みなさんも日々の業務の中で糖尿病を持っている患者に接する機会が多いと思います。その中で、血糖コントロールが不十分であったり、病識の薄い患者に指導を行った際、指導が一方通行になった経験はありませんか？今回、「患者心理」というテーマの中で、患者はただ指導されると『わかっているけれどできない』という思いが残るのみになるため、『患者自身が具体的目標を立てることが必要であり、それをサポートするためには指導だけでなく、まず相手の話を聞き励ますことが大事である。』ということを学びました。

私自身、日々の業務の中で相手の話をゆっくり聞くということが少なかったことに気づきました。今回の講演で大事なことは、患者を指導することではなく、サポートすることであると認識できました。

みなさんも是非このサポートすることを心がけてみて下さい。



びっくりしたニュースだったので・・・読売新聞より

石油を原料にして、インフルエンザ治療薬リレンザを化学合成することに、微生物化学研究所（東京都品川区）の柴崎正勝所長らのチームが世界で初めて成功した。安価な大量生産に道を開く技術で、耐性ウイルスが出現した際に素早く対応するための基礎技術にもなるという。柴崎所長は「近い将来、リレンザの耐性ウイルスが出現するだろうが、大流行への対抗手段として役立てたい」と話している。

第13回 救急看護学会学術集会に参加して

外来 秋月 小夜子

今回の日本救急看護学会テーマは「未来をよむ、そして実践」でした。現在、多くの救急認定看護師や急性・重症患者専門看護師がスペシャリストとして役割を果たしています。また、特定看護師(仮)の法制化を目指して、法的効力はありませんが特定看護師(仮)の育成が開始されています。特定看護師(仮)とは、医師の大枠の指示の下一部の医療行為を実施する看護師のことです。現在5年以上の臨床経験を持つ看護師が2年の教育課程を受講すれば自主的な判断で「特定行為」を行うことを可能になるという案が出されています。また、小児救急の院内トリアージ体制の診療報酬加算が新設され、今後成人トリアージ体制の診療報酬化が期待されています。2004年以降、トリアージナース制度の導入や業務整備などの検討が行われてきました。カナダのトリアージシステム「CTAS」を参考に「緊急度判定支援システム CTAS/JTAS プロトタイプ」というわが国の標準的トリアージシステムが開発されました。医療現場における人員不足は今後も継続するものと考えられており、特定看護師(仮)の本格的な制度化・法制化や救急現場でのトリアージシステムの推進によって、現状の限りある医療資源の有効活用が促進され、最低限の医療の質が確保されるのではないかと期待されています。

参考資料です。

看護のキャリア開発

認定看護管理者;1339名
専門看護師;8領域 612名
認定看護師;19分野 9047名
2011年7月現在

当院でも11月にキャリア開発についての研修が開かれました。様々な有資格者が資格取得の動機や役割について講義し、「支え、支えられる」チーム医療の意義と必要性をはなしていました。

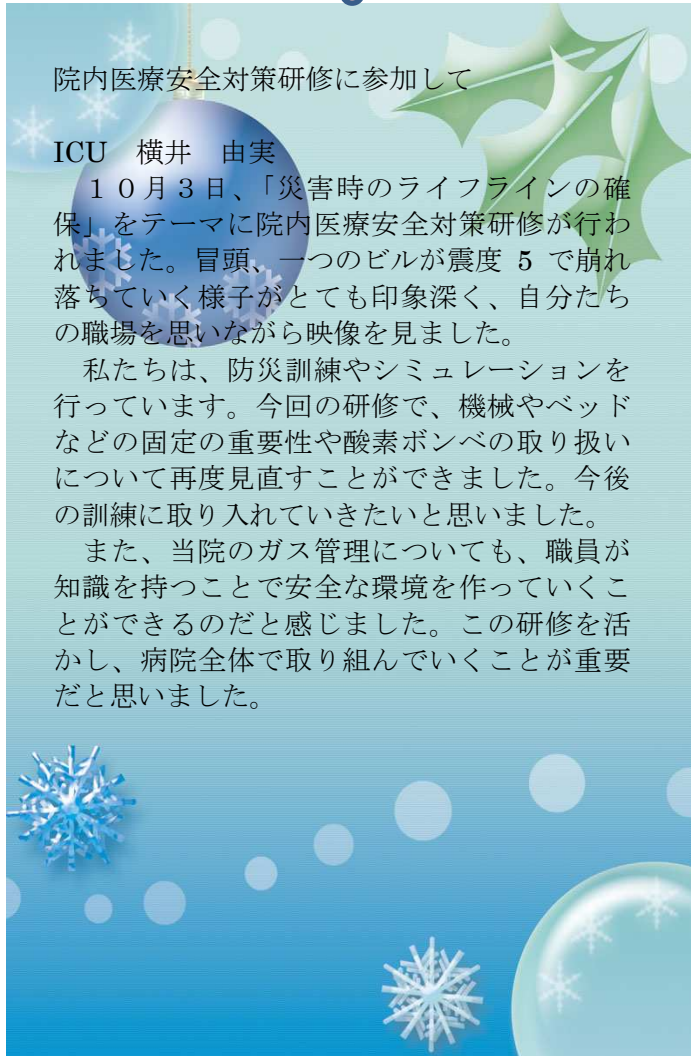
皆さんも資格取得に向けて計画を立ててみませんか！！



EHIME ROUSAI HOSPITAL KANGOBU NEWS 2011.11 NURSE LETTER 11

院内より

ナースレターも第99号となりました。次回は100号です。100号を記念して載せたい記事やコメントなどがありましたら、情報管理委員にお知らせください。100号記念特集などの意見も募集しています。よろしくお願いします。



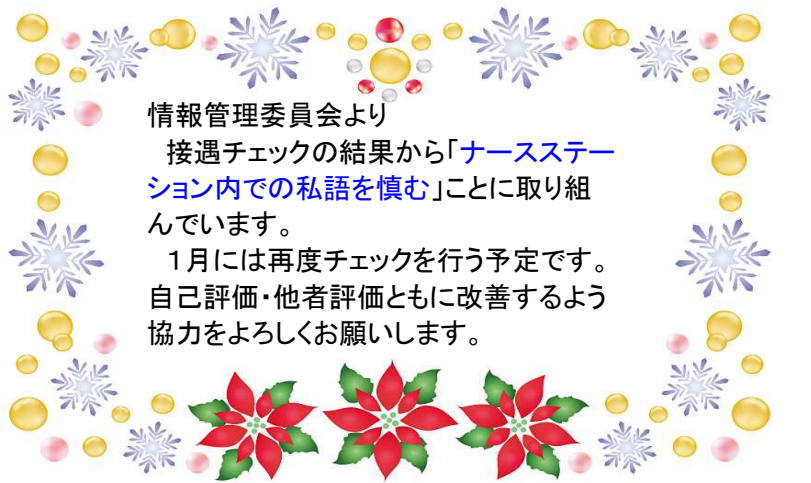
院内医療安全対策研修に参加して

ICU 横井 由実

10月3日、「災害時のライフラインの確保」をテーマに院内医療安全対策研修が行われました。冒頭、一つのビルが震度5で崩れ落ちていく様子がとても印象深く、自分たちの職場を思いながら映像を見ました。

私たちは、防災訓練やシミュレーションを行っています。今回の研修で、機械やベッドなどの固定の重要性や酸素ポンベの取り扱いについて再度見直すことができました。今後の訓練に取り入れていきたいと思いました。

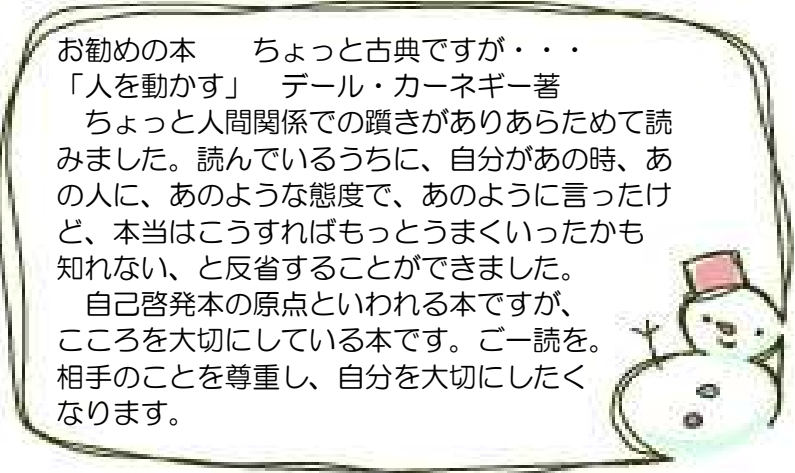
また、当院のガス管理についても、職員が知識を持つことで安全な環境を作っていくことができるのだと感じました。この研修を活かし、病院全体で取り組んでいくことが重要だと思いました。



情報管理委員会より

接遇チェックの結果から「ナースステーション内での私語を慎む」ことに取り組んでいます。

1月には再度チェックを行う予定です。自己評価・他者評価ともに改善するよう協力をよろしくお願いします。



お勧めの本 ちょっと古典ですが・・・

「人を動かす」 デール・カーネギー著

ちょっと人間関係での躓きがありあらためて読みました。読んでいるうちに、自分があの時、あの人の、あのような態度で、あのように言ったけど、本当はこうすればもっとうまくいったかも知れない、と反省することができました。

自己啓発本の原点といわれる本ですが、ここを大切にしている本です。ご一読を。相手のことを尊重し、自分を大切にしてください。

気になった ニュースです

人工呼吸器止まり患者死亡

2011年10月9日 読売新聞

看護師は今月8日午前8時21分、人工呼吸器の酸素供給を止める「スタンバイモード」にして、約1分間、患者の痰を吸引。約7分後に別の看護師が酸素が止まったままになっていることに気付いた。スタンバイモードにした看護師は「解除したはず」と説明している。呼吸器の履歴ではスタンバイのままだった。使用していた呼吸器はServo-i。当院にもあります。吸引でスタンバイにはしないけど・・・

胸郭の動きで確認する習慣は大切ですね。



第一回医薬品安全管理研修に参加して

ICU 箱崎 里奈

11月9日「持参薬の安全管理」をテーマに医薬品安全管理研修がありました。以前は持参薬の残薬がばらばらなことや持参薬が何の薬かわからずにとまどうこともありました。

入院時、どっさりを持ってきた持参薬、しかも当院や他の病院で処方された薬が混じっている、薬の説明書がないなど「これどうしよう」と思う時があります。

しかし、現在では薬剤師が介入してくれており、「ひやっ」とすることも少なくなってきました。他院で処方された薬に関しては、当院での採用の有無・代替薬・処方するときの注意点・相互作用などを組み込んだ薬剤説明用紙を作成してくれるので、患者指導時などにとても役立っています。

講義を受けて、薬剤部とさらに連携を行い、対策を立て安全に治療を受けられる環境を作っていくことが大切だと学びました。

